

静観台グループ例会

於：サイエンスフィールド 2003. 11. 12

参加者 高松（仁美小） 福井（伊島小）

先週から今週にかけて福井は大忙しでした。先週の日曜日にはサイエンスフィールドで科学教室を行いました。天気がおもわしくなく参加者が少なかったのですが、前日に退院された石浦先生も来てくださり、お元気な姿を見せてくださいました。金曜日には中国地区道徳教育研究会がありました。350名を超す参加者があり道徳教育に対する関心の高さが感じられました。それに比べて理科は…、頭が痛いですね。土・日には倉敷科学センターで「青少年のための科学の祭典倉敷大会」があり、静観台グループは昨年引き続いて『試験管に降る雪』を行いました。高松先生、倉橋先生、松本先生、福井の4名と天城高校の生徒さん2名でやりました。今年は試験管をネジ口のついたものに替えました。これは1本250円以上する高価な試験管ですが、容易に水溶液が封入できる、途中でゴム栓が外れることがない、という両面で優れていました。オイルとビーズを封入し万華鏡の先につけて見る試験管としても良いと思います。さて、そんなこんなで大忙しだと思っていた福井は、高松先生のスケジュールを聞いてまだまだ自分など甘いモノだなと感じました。とにかく単クラスの学校の6年生は半端じゃなく多忙ですね。

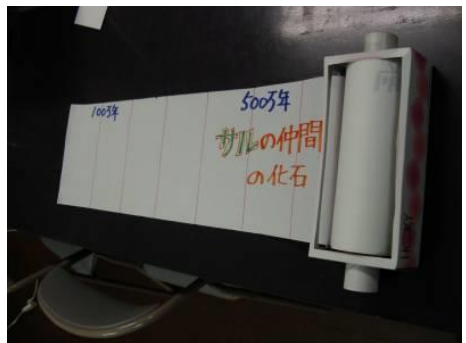
【ブラックライトで人形劇】 高松

学習発表会の出し物で『木竜うるし』の人形劇をするそうです。人形は100円ショップのもの。これに着物を着せて棒をつけ、操れるようにします。ブラックライトで暗闇に浮かび上がらせて視覚効果を狙っています。どんな劇になるか楽しみです。



【等尺年表 地質時代】 福井

大地のつくりの学習をしていると「1万年前」や「1億年前」といった大きな数字が出てきます。子供達は平気で使うのですが感覚的に理解できているのかあやしいものです。そこで1万年を1mmとした等尺年表を作ってみました。これで見ると平安時代は0.1mm、明治時代は0.01mm、子供達が生まれたのは0.001mmで表せます。あまりの短さに驚きます。これとは逆にサルの仲間が直立二足歩行をしたのが50cm、恐竜が絶滅したのが7m、恐竜の誕生は21m、5大陸の元になるパンゲア大陸があったのが25m…と表せます。（詳しい内容は割愛）理科室で広げていくと「なげえ！」と喚声が上がりました。この紙は以前倉橋先生に紹介して頂いた廃品です。巻き取る時にズレてむずかしいのでティッシュの箱を使ってガイドを作りました。



【シュリング・アルソミトラ, 100円万華鏡】 高松

前々回登場の『SLING WING』を飛ぶ種として有名なアルソミトラの形にリメイクしたものです。比較的小さなスチロールトレーで作れ、フワフワとゆっくり滑空するので面白いそうです。写真下の万華鏡は100円ショップで購入されたもの。安いけどミラーは十分にきれいだし、スパンコールを入れた液体の動きもちょうど良い。これで100円にはマイった！

